東京藝術大学美術学部絵画科

日本画

Tokyo university of the Arts

Japanese Paintings

制作・発行　令和二年度 東京藝術大学日本画研究室

美術学部　アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）

美術学部では、130年の歴史のなかで美術の各分野において時代を代表する作家、研究者教育者を輩出してきました。本学部はこうした伝統のなかで培われた創造性を身につけ、新たなる時代に対応し、優れたオリジナリティを発揮できる人材の育成を目的としています。本学部で学ぶ学生には、歴史のなかで蓄積された技芸と知識を修得し、さらにその成果を革新し、発展させ、広く世界の文化と社会のために貢献する能力が望まれます。

こうした理念を踏まえ、真摯な姿勢で教員とともに研鑽を積み、美術の世界に豊かな収穫をもたらす学生を広く求めています。

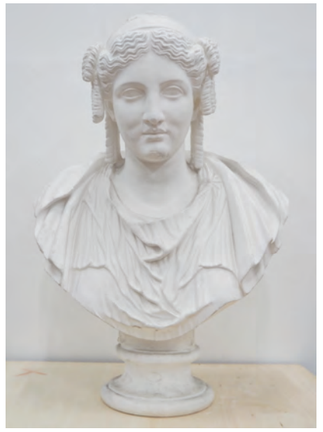
教 員（2020年度現在）

齋藤典彦	教授	松岡　歩	非常勤講師
吉村誠司	教授	長澤耕平	非常勤講師
植田一穂	教授	川﨑麻央	非常勤講師
海老　洋	准教授	澁澤　星	教育研究助手
宮北千織	准教授	重政周平	教育研究助手
髙島圭史	准教授	吉田侑加	教育研究助手
		伊東春香	教育研究助手
石原　孟	助教	山田雄貴	教育研究助手
		澤﨑華子	教育研究助手
		森友紀恵	教育研究助手

日本画の入試について

東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻の入試選抜は、大学入学共通テスト、本学が実施する実技試験、出身学校長から提出された調査書の各資料を総合的に判断し合格者を決定します。実技試験は一次入試として「鉛筆素描」を行い、一次入試合格者のみに、二次入試「着彩写生」を課します。詳細については今後（11 月）発行する『東京藝術大学学生募集要項』、または藝大ＨＰ（ホームページ：www.geidai.ac.jp）の更新情報を確認してください。

日本画の出題について (2020年度)



● 学部入試 一次入試　出題（12時間）

鉛筆素描：パジャント像

二日間で鉛筆素描一枚を完成させなさい。

一日目　9:00〜12:00 13:00〜16:00

二日目　9:00〜12:00 13:00〜16:00

出題意図

・石膏像を使用するのは、面を意識して、立体の把握とその表現力の有無を判断しやすい為。
・大型の半身像を出題することで、空間認識及びモチーフと画面の関係をみる感覚を図る。
・観察能力を重視し、光の捉え方・空気感の捉え方・輪郭の中の形と立体感の把握など描写力の能力を見る。

● 学部入試 二次入試　出題（12時間）

着彩写生：以下、すべてのモチーフを構成して着彩写生すること。

・鉢、皿、アルミホイルの3点を1セットとする。
（移動の際は1セットとして移動すること）
・パプリカ（赤）×1　・パプリカ（黄）×1　・アボカド×1
・ブロッコリー×1　・ペットボトル（水入り）×1
・写真資料

一日目　9:00〜12:00 13:00〜16:00

二日目　9:00〜12:00 13:00〜16:00

出題意図

・静物による空間認識と色彩感覚を見ると共に、構成力を見る。
・二次元の写真のネズミを、三次元的に表すことにより、空間認識と想像性を見る。
・描写力と創作力により、将来の発展展開するための基礎絵画的能力を見る。

※鉢はアルミホイルの外に出さないこと。
※鉢は皿の上にのせておくこと。
※ペットボトルから水を出さないこと。
※アルミホイルは切らないこと。また畳まないこと。
上記モチーフに以下の物を想定し描き加えること。
・ハツカネズミ（白）二匹
※頭胴体が約１０㎝のハツカネズミを実際のテーブル上に二匹いるよう想定し描くこと。
※体全体の５分の４は画面に入れること。
※頭が必ず描かれていること。
※配布した６枚の写真資料を参考にしてもよい。

カリキュラムについて

日本画科は作家及び美術に関わる諸分野での指導的人材の養成を目標としていますこれを実現するために本科における研究教育は現代絵画としての創造性の追求と同時に、わが国の美術の伝統と精神を継承し、これを発展させることを主軸に据えています。

主な授業科目としては、人物・風景・静物・動植物画、版画・壁画の制作、古典模写、人物素描、材料研究、古美術研究旅行、写生旅行等があり、課題別に定められた期間で履修していきます。

学部においては、1・2 学年を基礎課程と位置づけ、伝統的な技法の修得と造形・表現力を養うことを目指します。3 学年以降の発展課程では、自由課題を主に前述の事項をさらに前進させ、最終の4学年では集大成となる大作を制作し卒業制作展で発表します。

在学生からのメッセージ

学部３年在学（２０１９年度）

宮崎 美子

1・2 年次は制作を通して基本的な日本画の技法を学びます。制作期間が約３〜4 週間と長いため、一つ一つの課題に真剣に取り組むよう心掛けてきました。課題の中には３回の模写の授業があります。 本物の作品を見ることができる機会もあり貴重な経験でした。1 年次の模写は思うように墨や筆を扱うことができませんでしたが、しっかりと向き合い試行錯誤を繰り返すことで3 枚目には筆遣いや濃度の調整ができるようなっていたことを実感しました。 また２年次には東北の写生旅行があります。都会では見ることのできない自然には沢山の発見があり、とても興奮したのを覚えています。実際に足を運び、見て、取材をすることの大切さを学びました。

2018 年 課題作品
「東北風景制作 50 号」

アトリエ 制作風景

百合制作 研究会

菊制作

絵因果経模写

学部４年在学（２０１９年度）

三品 太智

在学生からのメッセージ

学部３年になると、今までの日本画制作に比べモチーフの指定が無くなり、自分の得意なものや興味があるものに一層深く踏み込むことができます。学部３年は４年次の卒業制作に向け自分の制作の方向性を考える時期です。描画材料にも少しずつ慣れ始め、絵の構成に力を入れることが出来ます。自分の得意な描き方を見つけ出すことが大きな課題になっていると思います。又、後期にある古美術研究旅行では奈良と京都の寺院や博物館を巡り、通常見ることの出来ない今尚残る名品を真近で見ることで日本古来の美意識に触れることが出来ます。過去の美術を考えることで、現在の自分に反映出来る何かを掴めると思います。

2018 年 課題作品「自由制作 50 号」

日本画 年間カリキュラム（２０１９年度）

【 前 期 】

月	4月	5月	6月	7月	7/31～9/30
１年	植物(百合)	植物(菊)	随身庭騎絵巻 模写	動物制作 50号	夏期休業
２年	絵因果経 模写	東北写生旅行 / 風景制作 50号		人物制作 50号	
３年	版画・壁画 集中講義	人物制作 50号	風景制作 50号	自由制作 50号	
４年	自画像 15号	自由制作 100号程度		自由制作 100号以上	

【 後 期 】

月	10月	11月	12月		1月	
１年	静物制作 30号	人物制作 50号	風景制作 50号	冬期休業	自画像制作(絹本) 15号	
２年	源氏物語絵巻 模写	自由制作 50号	風景制作(建造物) 50号		自由制作(絹本) ３０号程度	
３年	自由制作	古美術研究旅行（奈良・京都）	自由制作		自由制作	
４年	卒　業　制　作				自由制作	卒業制作展

【 材 料 講 義 】

- 絵具講義
- 筆講義
- 和紙講義
- 絹本講義
- 日本画材料講義
- 箔講義 (平押し)
- 箔講義 (切金・砂子)
- 裏打ち講義 (模写)
- 裏打ち講義 (絹本)
- 裏打ち講義 (150 号)
- 絵画講義

等

裏打ち講義

箔講義

東北写生旅行

模写ガイダンス

古美術研究旅行

版画集中講義

壁画集中講義

和紙講義

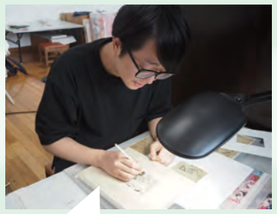
卒業制作展

卒業制作 制作風景

卒業制作 下図研究会

卒業制作展 搬入

在学生からのメッセージ



修士１年在学（2019 年度）

田尻 周也

学部４年生では､前期に自画像と大きい自由制作を二つ、後期は卒業制作というカリキュラムになっています。前期の自由制作の取り組み方は人それぞれですが、私は卒業制作を描くために必要だと考えていた技法や、絵肌を意識して、その予行演習のつもりで制作しました。後期になると、すぐに制作が始まります。スタートが遅れないように、夏休み中は卒業の構図を考えたりと制作前の準備に力を入れていました。

芸大では、東京都美術館で卒業制作を展示します。初めての 150 号サイズでの制作でもあるため、毎日とても緊張感を持って制作していました。一人では不安で投げ出してしまいそうなほど大変でしたが、同級生のみんなと同じアトリエで一緒に頑張り、先生方からの指導などに支えられて、制作を乗り越えられることができました。また、制作が終わった後も、美術館での搬入・搬出なども行うため、美術館で展示の知識も学べました。無事に卒業制作展を終えた時は、一生忘れない思い出になりました。

2019 年 卒業制作 150 号　「中心に在る」

進路について

研究を深めるため、大学院修士課程へ進学する学生が多いですが、教職に就く者、就職を希望する者、様々です。

将来的には作家として個展・公募展・グループ展等で自作品を発表し、美術界の第一線で活躍している者、小中高等学校、国内外の美術・教育系大学の教員、美術予備校などの講師に採用される者も多数います。また近年、国費留学・私費留学生として海外へ留学する者も多くなっています。

卒業後の進路先

日本画家	保存修復関連	オリエンタルランド
国立印刷局	漫画家	NHK エデュケーショナル
サイバーエージェント	ポリフォニー・デジタル	コナミ
本学教育研究助手	QLUTCH	チームラボ
公立・私立美術系大学教員	宝塚舞台	凸版印刷
公立・私立　高等学校・中学校教員	ムーンバット	任天堂
国立美術・教育系大学教員	カイカイキキ	フロムソフトウェア
美術系予備校　職員・講師	小津商店	三松
美術館・博物館　学芸員	アイテック工房	等

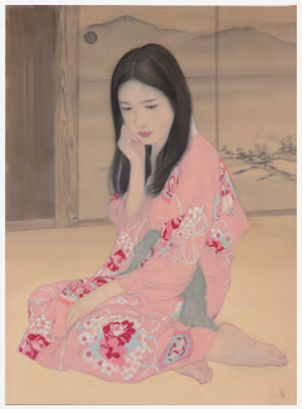
卒業生からのメッセージ

日本画家

大竹 彩奈
Otake Ayana

現在日本画家として活動し、主に女性の絵を描いています。また本の装丁画のお仕事も請け負っています。展覧会に向けて制作する日々ですが、装丁は出版社から依頼が来たらスケジュールを調整し随時引き受けています。装丁画は普段描かない表現を求められることが多いので、結果として自身の日本画制作の糧になっていると感じています。

学生時代は日本画の世界に足を踏み入れた初期の時代として、とても良い時間を過ごすことができました。先生方が作家として素晴らしい見本であったこと、自ら考える指導をして頂いたこと、そして同じ志をもった同級生の存在があったこと、それらにより落ち着いて絵画表現を研究することができ、現在の活動の礎となっています。



「つなぐ記憶」　2018 年

『横溝正史ミステリー短編コレクション』　装丁画

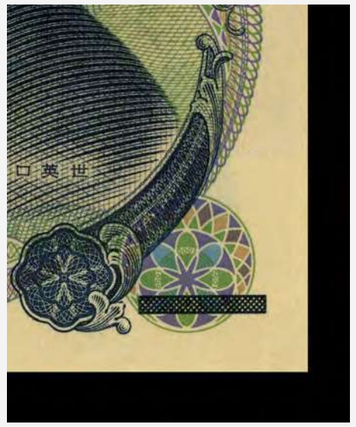
独立行政法人 国立印刷局
線画デザイン

秋山 洋平
Akiyama Yohei

私が就職した国立印刷局はお札を始め、官報、郵便切手、旅券（パスポート）など､公共性の高い製品を製造しています。私のいる部署には芸大・美大・美術高校出身者が多数在籍しており、これらの製品の設計をしています。

お札をよく観察していただくと、数多くの幾何学模様があるかと思いますが、私の主な業務はその幾何学模様を作ることです。

PC を用いた作業ですが、作り手の個性やセンスが問われる作業なので在学時に身に付けた感性や、ものの見方というのは、分野が違っても決して無駄になるものではないと感じています。日本画科を受験される皆さん、芸大の門は狭いですが、その分得られる経験はとても貴重なものです。一卒業生として陰ながら応援しています。

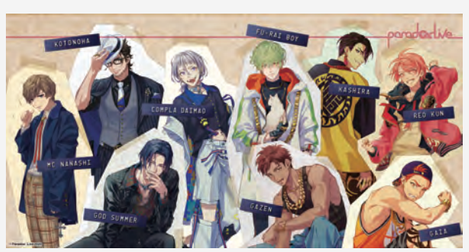


独立行政法人国立印刷局　提供

株式会社ジークレスト
（株式会社サイバーエージェントグループ）

ぷらなりこ
Planarico

私は学部卒業後、株式会社サイバーエージェントにイラストレーターとして新卒入社しました。様々なソーシャルゲーム制作に関わったのちジークレストに異動し、現在は「Paradox Live」という HIPHOP メディアミックスプロジェクトのアートディレクターをしています。

アートディレクターとは、グラフィックのテイストやクオリティを担保するべく全体を監修する仕事です。例えばデッサンを整えたり、見栄えが良くなるよう魅力を足したり、キャラクターデザインをしたり。自分で手を動かしながらメンバーに指示を出しています。クリエイターそれぞれのスキルやセンスを生かし、力を合わせてコンテンツを作り上げ、世界中に発信し沢山の人に楽しんでもらえる素晴らしい仕事です。

高校生から描き続けてきたデジタルイラストのスキルを生かして就職しましたが、日本画受験で培ったデッサン力や、在学中に様々な作品や伝統に触れることで形成された美意識やこだわりが、今の仕事の基盤になっています。